

第334回

日文研フォーラム

講師◎王 中忱
清華大学人文学院(中国) 教授／日文研外国人研究員

思想の越境と連鎖——尾崎秀実の中国論と「中国農村派」

コメンテーター◎劉 建輝
日文研 副所長

司会◎呉座 勇一
日文研 助教

2020年2月14日(金) 十四時～十六時(開場十三時四十分頃)

ハートピア京都3階大会議室 入場無料・先着一八〇名まで

申込不要(十三時十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies
The 334th Nichibunken Forum

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



日文研フォーラム

思想の越境と連鎖

—尾崎秀実の中国論と「中国農村派」

Intellectual Border-crossing and Interaction:
Osaki Hotsumi's China Theory and the "Agrarian China School"

ゾルゲ事件で知られている共産主義者の尾崎秀実は、戦前に中国問題の評論家として数多くのユニークな論著を残しました。

本発表はまず尾崎秀実の中国論の中に引用された、マルクス主義「中国農村派」の論点を手掛かりにして、両者の相互関連性を指摘します。さらに、「中国農村派」の指導者と見なされる陳翰笙と尾崎秀実との交友関係及び思想論争を考察し、同時代の国際的な知識人の「思想連鎖」の視点からそれを分析してみます。

講師 王 中忱 清華大学人文学院(中国)教授/日文研 外国人研究員



1992年3月大阪外国語大学修士取得(言語・文化学)、1994年9月清華大学(中国)準教授、2001年8月より同大学教授、2019年10月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。専門分野は比較文学、中日近代文学・思想・文化関係史。

主要著書に、『事件としての文学と歴史の叙述』(『作为事件的文学与历史叙述』、人間出版社、2016)、『越境と想像—20世紀中国・日本文学比較研究論集』(『越境と想像—20世紀中国・日本文学比較研究論集』、中国社会科学出版社、2001)、『モダニズムを見直す—東アジアの視点或いは漢字圏からの問題提起』(『重審現代主義—東亜視角或漢字圏の提問』、編著、清華大学出版社、2013)などがある。

コメンテーター 劉 建輝 日文研 副所長



中国・遼寧大学外国語学部日本語科卒業。神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了。中国・南開大学外国語言語文学部日本語言語文学科助教授、北京大学比較文学・比較文化研究所助教授を経て、1999年4月より国際日本文化研究センター助教授就任。2013年4月同教授、2016年10月より現職。専門分野は、日中比較文学、比較文化。

主要著書に、『日中二百年—支え合う近代』(武田ランダムハウスジャパン、2012)、『増補・魔都上海—日本知識人の「近代」体験』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、2010)などがある。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)に滞在中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、交流の一助となることを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2
TEL: 075-335-2078
<http://www.nichibun.ac.jp/>



京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車